01 × 100
MARUICHI × HUNDRED

第90期 中間株主通信

2023年4月1日▶2023年9月30日

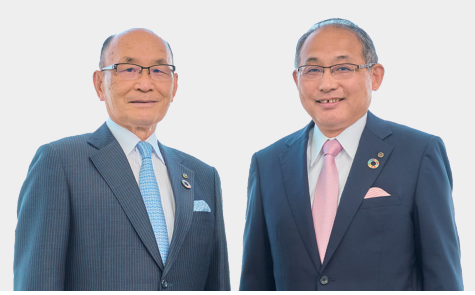
丸一鋼管株式会社
證券コード：5463

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに2023年度（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



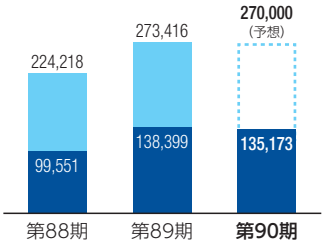
代表取締役会長兼CEO 鈴木 博之
代表取締役社長兼COO 吉村 貴典

連結財務ハイライト

売上高

135,173百万円 （前年同期比 2.3%減）

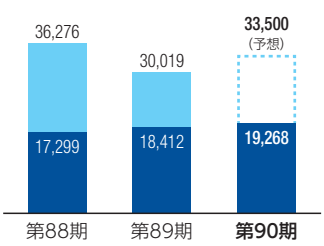
単位（百万円） 通期 中間期



営業利益

19,268百万円 （前年同期比 4.7%増）

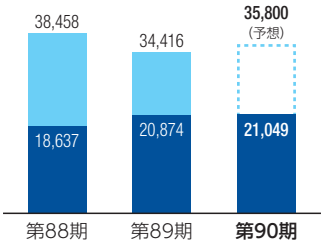
単位（百万円） 通期 中間期



経常利益

21,049百万円 （前年同期比 0.8%増）

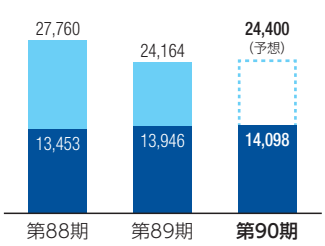
単位（百万円） 通期 中間期



親会社株主に帰属する当期純利益

14,098百万円 （前年同期比 1.1%増）

単位（百万円） 通期 中間期



配当情報

11月30日に中間配当として1株当たり55円00銭の配当を行いました。期末配当は67円50銭を予想しており、年間配当額は122円50銭となる見込みです。第89期の1株当たり年間配当金109円50銭と比較して13円00銭の増配となる見込みです。

1株当たり配当金 単位：円

	中間	期末	年間合計
第89期	40.00（実績）	69.50（実績）	109.50（実績）
第90期	**55.00（実績）**	**67.50（予想）**	**122.50（予想）**

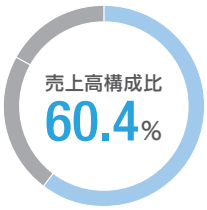
その他財務の詳細はこちら
https://www.maruichikokan.co.jp/ir/index.html

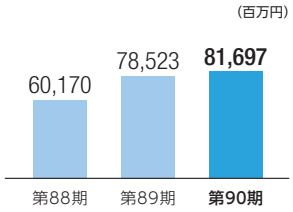
セグメント別の概況

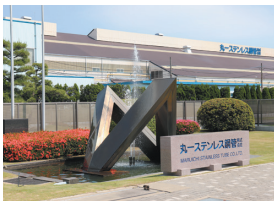
日本　業績の概要

売上高
816億9千7百万円

前年同期比
4.0%増






丸一ステンレス鋼管㈱

国内事業につきましては、自動車生産は回復傾向にあるものの、工場・倉庫等の着工床面積の減少等から当社主力の中小建築案件の需要が盛り上がらない中、単体の販売数量は前年同期比△5.2%の実績となりました。また、パイプ販売単価についても、一部値下げ対応せざるを得ない状況の中、価格とスプレッド幅の維持に努めました。売上高は、単体は数量減から前年同期比ほぼ横這いでしたが、丸一ステンレス鋼管㈱はステンレス管やBA管の値上げにより増収となったことに加え、東洋特殊鋼業㈱を新規連結子会社化した効果により、合計は816億9千7百万円（前年同期比4.0%増）と増収になりました。（東洋特殊鋼業㈱を除外した実質ベースでは同0.5%増の横這い）。セグメント利益は、単体が数量減による固定費負担増およびコストアップで減益となり、丸一ステンレス鋼管㈱も期初想定は上回ったものの減益となり、全体で127億5千4百万円（同7.2%減）と減益になりました。

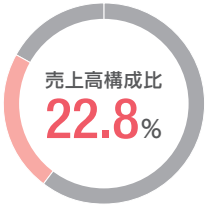
●**今後の見通し：**国内単体事業につきましては、中小建築分野を始め需要回復は期待薄で、下期の販売予定数量は前年同期比横ばいに止まる見通しとしております。コイル仕入価格は国内材が高値で張り付いた状態にあり、販売数量の増加が見込めないため、前年度までの値上げ価格を維持し、スプレッドの確保を最優先に取り組んでまいります。加えて、電力等のエネルギーコストや副資材等の製造コストやパイプの切断加工賃等の外注コスト等の上昇もあり、引き続き自助努力として工場の生産性向上やコストダウンに取り組む一方、コスト上昇分の製品販価への転嫁に努めます。丸一ステンレス鋼管㈱は、好調であったBA管が、半導体価格の下落に加え米中の半導体装置輸出規制問題もあり、半導体製造工場の建設遅延や、需要家でのBA管の在庫圧縮の動きもあり、BA管需要が減少する見込みを期初に策定しましたが、足元では想定程には落込んでおりません。

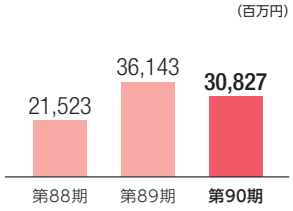
設備投資関連では、女性も扱える次世代造管機をコンセプトとして造管機メーカーと共同で開発を進め、名古屋工場3号機（6インチミル）の老朽化更新への採用を進めるべく、これに先駆けて既存カラー塗装設備の新建屋建設による移設を進めております。また、工場の現場作業の環境対策の一環として、今夏に東京工場の一部ラインでエアコンを設置し効果もあることから、今後は全工場展開を予定しております。丸一ステンレス鋼管㈱ではコイル管の生産能力増強も進めております。

北米　業績の概要

売上高
308億2千7百万円

前年同期比
14.7%減





Leavitt社

北米事業につきましては、（決算期が1～6月とズレており）米国の熱間圧延コイル（HRC）価格（英国CRU社による米国中西部コイル価格指数）が、年初763$/トンでスタートしたものが4月末には1,300$台/トンまで上がり続け、製品値上げ局面の中で受注も堅調に推移、その後5月から下がり始め6月末には1,000$/トンを下回りました。米国マルイチ・アメリカン・コーポレーション（MAC社）、米国マルイチ・レビット・パイプ・アンド・チューブLLC（Leavitt社）、米国マルイチ・オレゴン・スチール・チューブLLC（MOST社）、米国マルイチ・ネブラスカ・チューブLLC（MNT社）の米国4拠点合計の販売数量は、前年同期比＋5.0%の伸長となりました。また、メキシコのマルイチメックスS.A.de C.V.（Maruichimex社）の販売数量も、半導体不足解消による日系自動車メーカーの増産により前年同期比＋18.5%となりました。

売上高は、販売数量は増加しましたが、前年同期の高いHRC価格水準を背景とした販売価格対比では単価が下がっており、308億2千7百万円（前年同期比14.7%減）と減収になりました。一方、セグメント利益は、第1四半期のHRC価格の上昇に連動した製品販売価格の値上げがコイル消費単価の上昇に先行し、結果スプレッドが改善出来たことから、45億9千5百万円（同61.8%増）と増益になりました。

●**今後の見通し：**北米事業につきましては、金融引締めによる影響はあるものの、景気は底堅さを維持しております。米国のHRC価格は、年初以降の上昇が、4月下旬から下落し足元は700$台で下げ止まり感がありますが、金利上昇下でも引き続き鋼材需要は堅調で受注・出荷も底堅さを維持しており、鋼管価格はHRC価格変動ほどの上下は少なく、数量とスプレッドの確保による利益改善を期待しております。また、米国MNT社については単月で黒字化出来ており、コスト削減と材料の機動的手配のために、コイルのスリット内製化についての設備投資を進めてまいります。米国の半導体需要拡大に伴い昨年8月にテキサス州に新規設立したBA管製造子会社マルイチ・ステンレス・チューブ・テキサス・コーポレーション（MST-X社）では、建屋着工も順調に進んでおり2024年第1四半期の稼働開始予定ですが、足元の一過性と思われる半導体需要の落ち込みもあり、稼働は柔軟に対応し進めております。

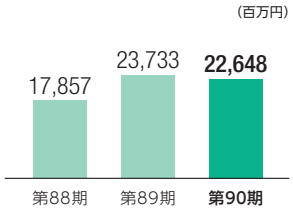
ご案内

会社法改正により、株主総会資料は、原則、当社ウェブサイト上でご確認いただくことになりました。引き続き株主総会資料を書面でお受け取りいただくためには、次回株主総会の基準日（2024年3月31日）までに「書面交付請求」のお手続きが必要となります。基準日後にお手続きをされた場合、その次の株主総会基準以降の発送物から書面送付となりますので、お早めにお手続きをお願いします。

アジア　業績の概要

売上高
226億4千8百万円

前年同期比
4.6%減



SUNSCO社

アジア事業につきましては、ベトナムのマルイチ・サン・スチール・ジョイント・ストック・カンパニー（SUNSCO社）では、中国のゼロコロナ政策転換による市況回復に勢いが無く、ベトナム国内需要も回復の兆しが無い中で、輸出の増加で販売数量は前年同期比＋1.5%となりました。一方、マルイチ・サン・スチール・（ハノイ）・カンパニー・リミテッド（SUNSCO(HNI)社）では、日系二輪メーカーの販売台数減少から、販売数量は前年同期比△11.4%となりました。フィリピンのマルイチ・フィリピン・スチール・チューブ・インク（MPST社）の販売数量は、二輪メーカーの現地生産の拡大を背景に受注を確実に取込み、前年同期比＋70.6%と大幅に増加しました。インドのマルイチ・クマ・スチール・チューブ・プライベート・リミテッド(KUMA社)では、乗用車販売が好調で販売数量は前年同期比＋6.2%増加しました。

結果、売上高は、SUNSCO社で数量は増加しましたが市況の影響から販売単価が下がり減収、SUNSCO(HNI)社も数量減から減収となったことで、全体では226億4千8百万円（前年同期比4.6%減）と減収になりました。セグメント利益は、MPST社の寄与が大きく、全体では16億9千4百万円（同4.5%増）と増益になりました。

●**今後の見通し：**アジア事業につきましては、中国のゼロコロナ政策の転換による行動規制の緩和からコイル価格は上昇しておりましたが、6月以降は下落し、乱高下しております。ベトナムSUNSCO社では、中期的にはベトナム国内の販売比率拡大や日系家電メーカーへの鋼板拡販を目指すものの、国内建築需要の回復遅れや金利高止まりへの対応として、短期的には輸出に注力しており、また昨年増加した在庫と借入金の圧縮に取り組んでおります。ベトナムSUNSCO(HNI)社では、二輪車の半導体不足によるサプライチェーン問題も解消しましたが、バイク販売台数の落ち込みが見込まれ、販売数量予想は前年度割れとしています。インドKUMA社では、四輪市場の需要が急回復しており、加えて環境規制強化から商用車向け大径排気管需要が増加しており、増設したバンガロール工場ラインも含め、販売数量の増加を見込んでおります。フィリピンのMPST社では、足元二輪メーカーの現地生産の拡大を背景に受注を確実に取込み販売数量は前年同期比の1.5～2倍の伸長を見込んでおり、早期の累損解消が出来ると考えております。

事業全体の状況は、以下のとおりであります。

販売数量面では、日本（単体）が前年同期比割れとなったことから、北米およびアジアでは前年同期比増とはなりましたが、全体では前年同期比△1.3%の減少となりました。売上高は、日本セグメントが増収となった一方で、北米・アジアが減収となり、1,351億7千3百万円（前年同期比2.3%減）と減収になりました。利益面は、逆に日本が減益、北米・アジアが増益となり、営業利益は192億6千8百万円（同4.7%増）と増益になりました。営業外損益は、受取配当金の減少などから前年同期比6億8千万円悪化しましたが、経常利益は210億4千9百万円（同0.8%増）と増益になりました。特別損益は、関係会社株式売却益などから、前年同期比3億9千1百万円改善しました。これらの結果、親会社株主に帰属する中間純利益は140億9千8百万円（同1.1%増）と増益になりました。対米ドル換算レートは、1米ドル134円85銭であります。

なお、前回（2023年5月11日）に公表しました第2四半期累計期間の連結業績予想に対しては、売上高は未達成となりましたが、利益面はいずれの利益も予想値を上回りました。

2023年度 TOPICS

4月
- 「丸一グローバル・フォーラム2025」開催を発表
- 東洋特殊鋼業株式会社を連結子会社化
- 従業員エンゲージメント調査を実施
- 大阪地区で第55回ファミリーフェスティバルを約6年半ぶりに開催

5月
- 東部地区で第38回ファミリーフェスティバルを4年ぶりに開催
- 九州工場第4工場竣工披露パーティを開催
- 堺工場　SR仕上げ工程の更新工事が完了
- 鹿島特品工場　新たな縮管設備を設置

7月
- 高校生採用サイトリリース

8月
- 統合報告書2023初版発表
- 東京工場製造ラインに冷房設置

統合報告書の発行

価値創造ストーリーは7～8ページをご覧ください。

- 丸一鋼管グループの全体像や価値創造ストーリーを過去から未来に亘り表現。
- 会長・社長のトップインタビューを掲載、丸一鋼管グループの未来を語ります。
- 丸一鋼管グループを推進させるための原動力となるESG情報を一元化して掲載。

https://www.maruichikokan.co.jp/csr/esg-report.html

会社・株式情報

会社概要

社名	丸一鋼管株式会社
英文社名	MARUICHI STEEL TUBE LTD.
創業	1926年
設立	1948年3月1日
資本金	95億9,515万2,375円
従業員数	589名(連結:2,491名)
本社	〒542-0076 大阪市中央区難波五丁目1番60号 なんばスカイオ29階

役員

代表取締役会長 兼CEO	鈴木博之
代表取締役社長 兼COO	吉村貴典
取締役	森田渉
取締役	角野実
取締役	中野健二郎
取締役	牛野健一郎
取締役	藤岡由佳
取締役	辻幸一
常勤監査役	寺尾健彦
監査役	魚住隆太
監査役	奥村萬壽雄
監査役	内山由紀

執行役員

会長執行役員 兼CEO	鈴木博之
社長執行役員 兼COO	吉村貴典
副社長執行役員	森田渉
専務執行役員	角野実
常務執行役員	石松伸一
常務執行役員	樺沢賢治
執行役員	本田俊作
執行役員	山本信弘
執行役員	池田幸一
執行役員	青山孝次
執行役員	井本浩嘉
執行役員	粟根良昭
執行役員	成﨑敏行
執行役員	中堀勝

株式の状況

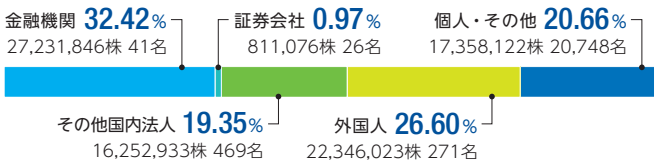
発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	84,000,000株
単元株式数	100株
株主数	21,555名

大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,206	11.52
株式会社ヨシムラホールディングス	4,700	5.88
株式会社三井住友銀行	3,900	4.88
株式会社三菱UFJ銀行	3,886	4.86
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,543	4.43
株式会社日本カストディ銀行(三井住友信託銀行再信託分・JFEスチール株式会社退職給付信託口)	3,003	3.76
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	2,283	2.85
CHINA STEEL CORPORATION	2,000	2.50
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,885	2.36
丸一鋼管共栄持株会	1,610	2.01

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式4,146,217株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。
3. 持株比率は小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。また、自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主優待制度のご案内

当社では、株主の皆様の日頃のご支援、ご愛顧に対する感謝の意を込めて、株主優待制度を実施いたしております。

株主優待制度の内容

毎年9月30日現在および3月31日現在の株主名簿に記録された株主の皆様を対象とさせていただきます。

ご所有株式数100株以上、1,000株未満で
おこめギフト券 3枚(3kg分)

ご所有株式数1,000株以上で
おこめギフト券 6枚(6kg分)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
定時株主総会	毎年6月
配当金支払予定日	期末配当金 毎年 6月末 中間配当金 毎年11月末
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
各種お問合せ先 [郵便物送付先]	三菱UFJ信託銀行株式会社　大阪証券代行部 〒541 - 8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777（通話料無料）
[ホームページ]	https://www.tr.mufg.jp/daikou/
公告方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることが出来ないときは、日本経済新聞に掲載する。
上場取引所	東京証券取引所プライム市場
単元株式数	100株

株式に関する各種お手続き

住所変更、配当金の振込方法・振込先の変更、単元未満株式(100株未満の株式)の買取請求および買増請求などにつきましては、口座を開設されている証券会社にお申出ください。
また、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。

(注) 配当金の振込方法・振込先の変更などのお手続きにつきましては、会社決算日または配当金基準日までにお手続きいただけない場合は、ご指定の方法によるお支払いが次回の配当金からとなることがあります。

未受領の配当金について

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

当社に関する情報は、次のホームページに掲載しております。

https://www.maruichikokan.co.jp/

丸一鋼管株式会社

証券コード　5463

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915

VEGETABLE OIL INK 本報告書は、FSC®認証紙と、環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています。